

盛岡

タイムス

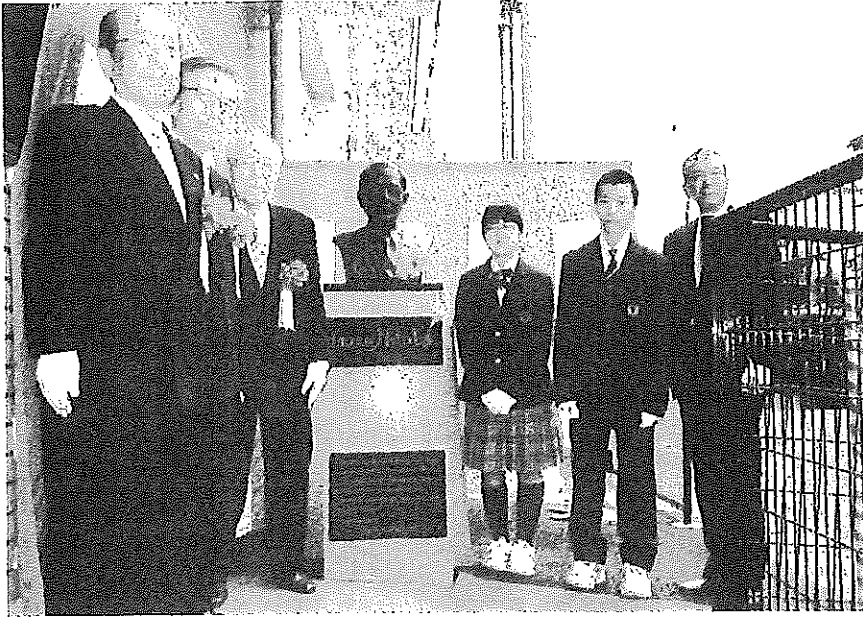
2018. 5. 24

新聞定価 月々2,262円(本体価格2,095円、消費税167円)1部売り(税込み)100円

盛岡

龍澤学館

新渡戸稲造の志を原点に



谷口誠新渡戸国際塾塾長(左から3人目)ら来賓も招き、新渡戸稲造博士の胸像を除幕

台湾実業家が寄贈の胸像

附属中開校を記念し設置

龍澤学館(龍澤正美 高附属中(千葉研二校)を記念し23日、盛岡市理事長)は、盛岡中央長、生徒5人の開校みたび4丁目の同校正

面玄関入り口に、新渡戸稲造博士の胸像を設置した。除幕式には第一期生の1年生53人と来賓らが出席。世界を舞台に活躍した博士の志を胸に、学びを深めていく誓いを新たに

した。胸像は、ブロンズで本体の高さが約60センチ、台座が高さ約110センチ。台湾の実業家である美術博物館会長でもある許文龍氏が、新渡戸博士の志を伝える同学館の教育理念に賛同し、2012年に寄贈した。

生徒代表と新渡戸国際塾塾長の谷口誠氏(元国連大使、元県立大学長)や松井瑞巧盛岡先人記念館館長らが紅白のひもを引いて除幕し、胸像を披露した。龍澤理事長は「広い志を持って世界にはば

たき、大きな人物に育つてくれると期待している」とあいさつ。谷口氏は「夢を持って努力し日本とアジア、世界の懸け橋となるような活躍を」と激励した。

生徒を代表し、熊谷和珠さん(12)は「新渡戸博士の『我、太平洋の懸け橋とならん』という言葉を身に刻み、私たちが世界へ飛び出していきけるよう精いっぱい勉強に取り組み」と英語で宣誓。このあと、谷口氏による記念講演会も開かれ、世界へと意識を高め

た。同学館の創立者である龍澤福美、トヨ夫妻は、尊敬する新渡戸博士の生誕地である盛岡市鷹匠小路(現在の下ノ橋町)で私塾を始め、夫妻の思いにも応え、同校はグローバル教育を重視している。生徒たちは盛岡の文化や歴史について学びを深めた上で来年、新

渡戸博士が糖業発展などに尽くした台湾での研修に臨む。